

SHINGON HORONIC

色

IRO

は

WA

勾

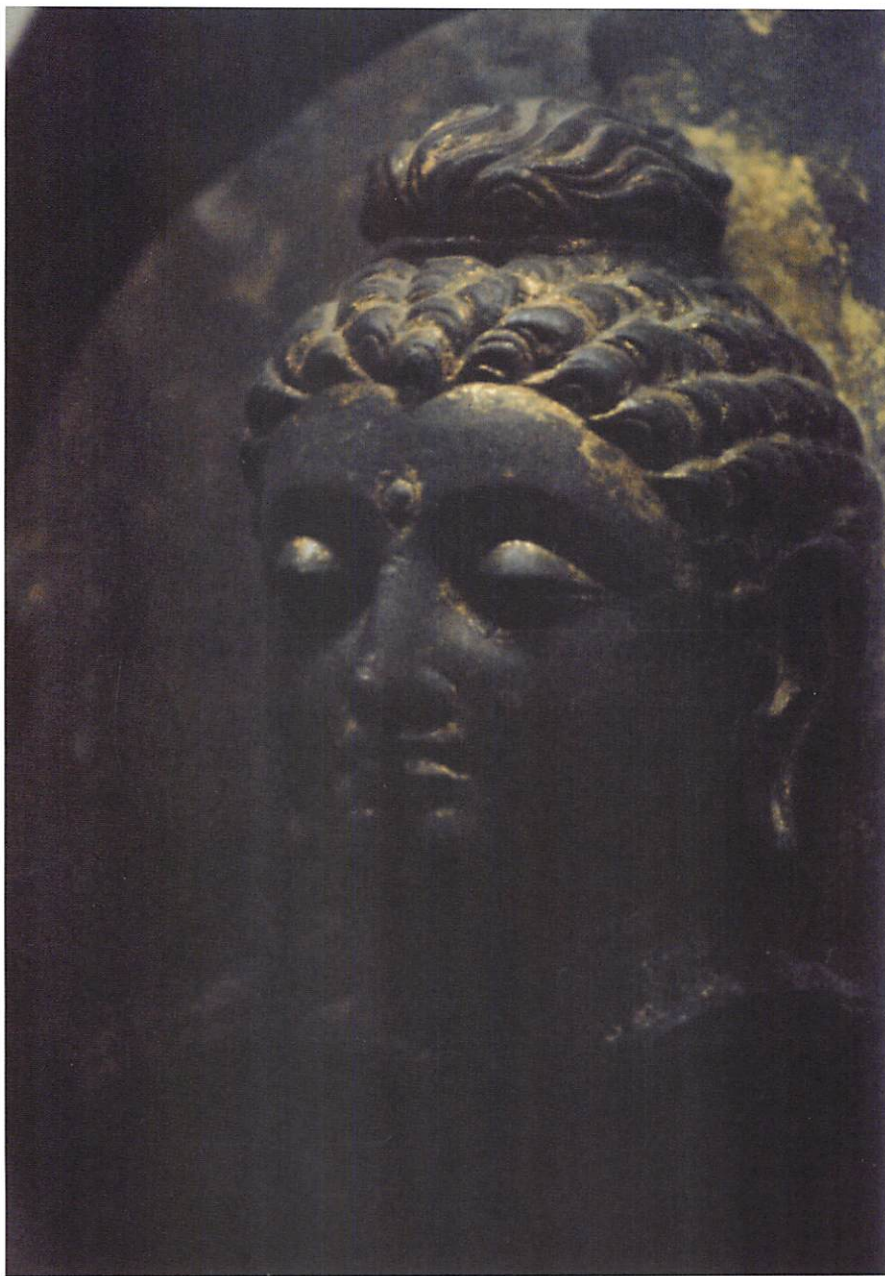
NIO

へ

E

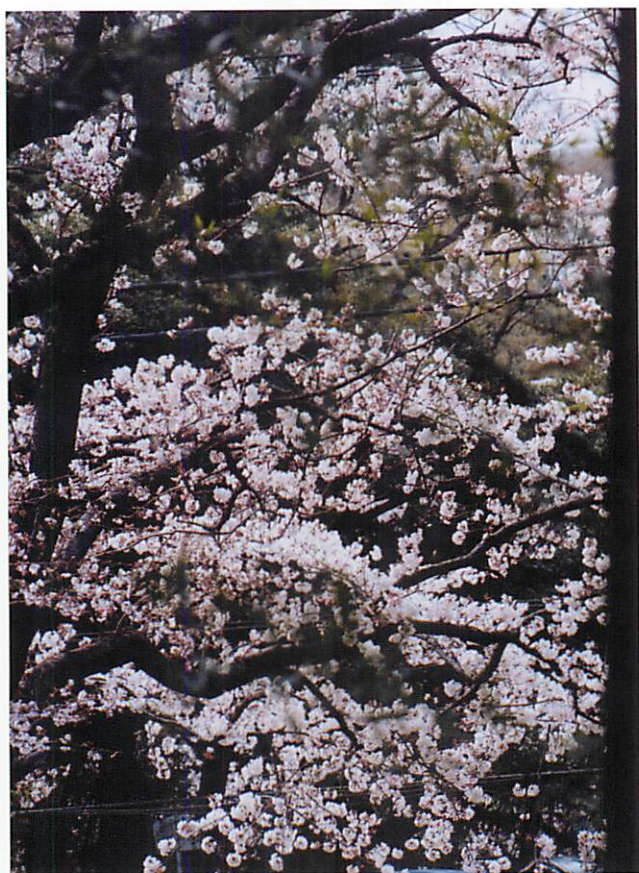
ど

DO



特集 仏像誕生の地ガンダーラ

平成十七年弥生 卷三十四



桜の靈性

桜の咲く四月八日が
お釈迦様のお誕生日
日本人の多くが

桜が咲く日を心待ちにします
とくに吉野の桜は格別です

東大寺に匹敵する巨大木造建築

吉野山中の蔵王権現堂、そのご本尊

日本最大秘仏金剛蔵王権現三休

桜の靈木に刻まれたその偉容

莊嚴なお姿が今年の六月まで

ご開帳されています

お参りすることができます

編集主幹

阿部龍樹

特集 仏像誕生の地ガンダーラ 3



お釈迦さま 真理の花束 13



ジャータカ物語
金色の鹿 15

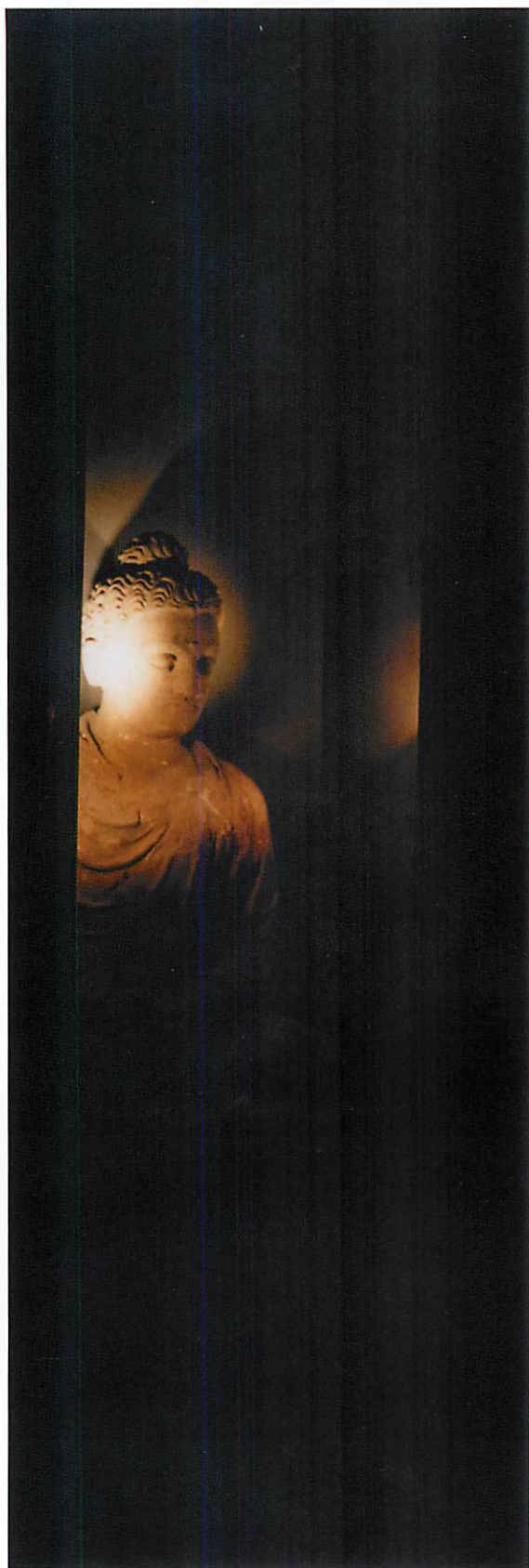
情報コーナー



18



特集 仏像誕生の地 ガンダーラ



ガンダーラ遺跡は現在のパキスタンの北方に広がるインダス川流域の肥沃な土地にあります。

かつてのガンダーラは東西に大きく拡がり西は今のアフガニスタン、東は現在のインドにまで拡がっていたようです。

そしてガンダーラの中心はパキスタンの今のペシャワールとタキシラでした。

パキスタンはインドの北西にあり西側にはアフガニスタンとイランに国境を接し、北は中国と国境を接し、南にはアラビア海が拡がっています。

国土の面積は日本の二倍以上。人口は日本とほぼ同じ一億三千万人です。

ヒマラヤ山系から流れる水が豊かなインダス川の流れとなって国土を縦貫し、肥沃な土地を形成してアラビア海にそそぎ込み

ます。

世界の四大文明の一つ、インダス文明の中心地がこのパキスタンです。紀元前から高度な文明を誇ったこの地を、アレキサンダーが険しいヒンドウークシ山脈を越えハイバル峠を通じて征します。紀元前三百二十九年の早春のことです。

東西文明の交流と交易の要衝であるハイバル峠をこえて地中海世界の影響が入りギリシャ、ペルシャ等の文化が流入します。

やがてインドのマウリヤ王朝がタキシラ一帯をマウリヤ王朝の一州として編入します。

このマウリヤ王朝の第三代アシヨカ王が仏教に深く帰依し、仏教を世界に拡げていきます。

この時ガンダーラにも仏教が伝えられ、やがてタキシラは仏教の中心地として栄え、ここから中央アジアにまで仏教が広められていきました。

シルカップ遺跡のメインストリート



シルカップ遺跡の仏教の塔



PHOTO F.YOSINORI

タキシラにあるシルカップ遺跡はインド、ギリシャ、イランの影響を残す古代都市の遺跡です。インドグreek時代と言われる紀元前二世紀に作られました。中央にメインストリート。左右には商店が並び各家からは排水溝も整備されていました。

仏教の塔・ストウーパやジャイナ教のストウーパが残り、また近くにはギリシャ神殿の様式をもつゾロアスター教の寺院遺跡もあります。ゾロアスター教とは拝火教ともいわれ中央アジアの謎の民族クシャン族が信仰するとても古い宗教です。

さてこのインドグreek時代は文字通りインドとギリシャが深く交流した時代でした。アシローカの王朝が減んだあとギリシャの王ミリンダがこの地を支配します。

ギリシャ哲学で育ったミリンダ王がインド仏教の賢者ナーガセーナに仏教の教理を尋ねました。ついにミリンダ王は仏教に深く帰依することになりました。

この対話は『ミリンダ王問経』として現代まで伝えられています。

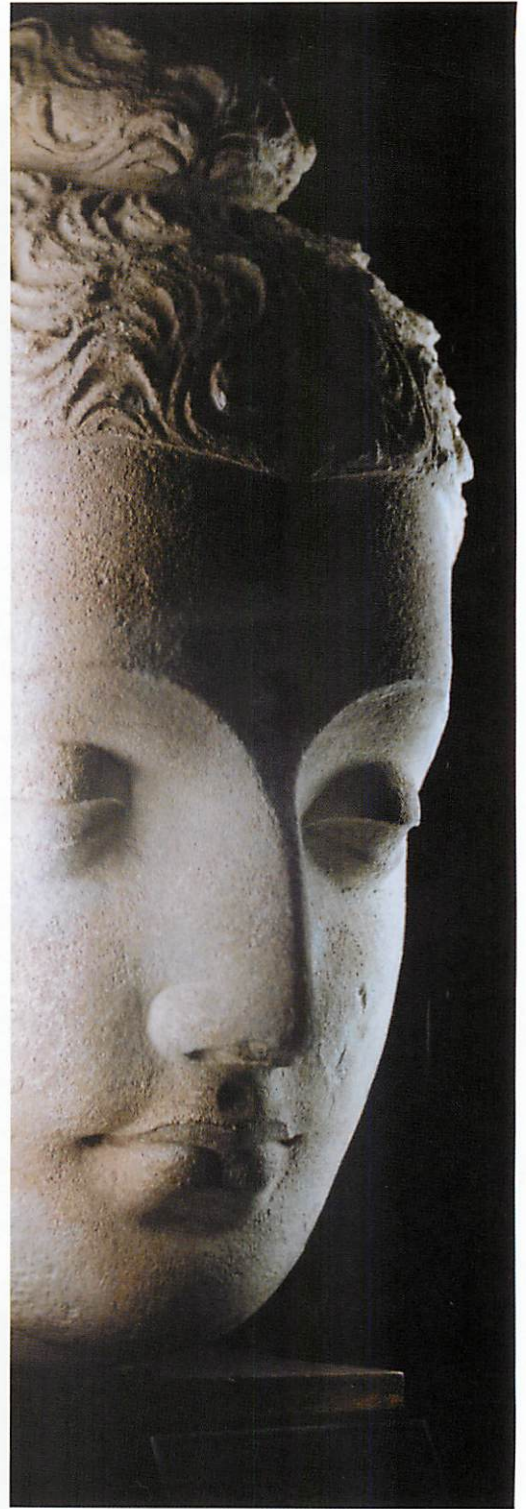
近代文明に生きる現代人にも大きな示唆を与えてくれます。



メインストリートに面する排水設備。



シルカップ遺跡を観光するパキスタンの母と子供。



仏像が生まれる前、人々は仏陀の姿を法輪や菩提樹で現していた。彫りの深いギリシャ人を思わせる仏陀の姿。



仏足石の刻まれた法輪

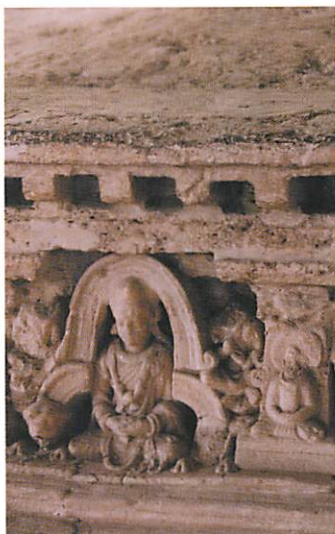


ジョーリアン遺跡

仏像はいつ生まれたのか

仏教が生まれたインドから遠く離れたガンダーラで最初の仏像が生まれました。なぜインドから遠い場所です最初の仏像がうまれたのか、それが何時だったのかは多くの学説があり謎があります。

アレキサンダー大王が世界を征服するとヘレニズム文化が世界に拡がります。



ジョーリアン遺跡

ヘレニズムとはギリシャ語を正しく使うことを意味しています。ギリシャの神々は偶像をもってその姿を現しています。ヘラクレスやアフロディテ、ミロのビーナスもギリシャの神の姿です。

ヘレニズムの大きな流れの中で仏教が興隆していたガンダーラで仏像が生まれてくるのは自然な流れだったのかもしれない。



ジョーリアン遺跡

アレキサンダー大王が入りギリシャ文明が拡がり、インドのアショカ王によって仏教が拡がりました。そしてさらにギリシャのミリンダ王が入り仏教に帰依することでヘレニズムと仏教の絆が一層強くなりました。いつ仏像が生まれてもおかしくないほど、ガンダーラの文化と思想哲学が深まっていました。そしてこの地に歴史上有名なもう一人の他民族の王が登場します。

カニシカコインで有名な中央アジアの支配者、遊牧民クシャン族の王カニシカです。



ゾロアスター寺院跡
ギリシャ建築の影響
が残る柱の頭部



出山（しゅっせん）の釈迦像 苦行を離れスジャータという村の娘から供養されたミルク粥で体力をつけられた。そして悟りを開けなければ二度とこの座を立たないという不退転の決意で瞑想の座につかれた。厳しい断食で骨と皮ばかりとなった姿を見事に現すガンダーラ美術の至宝。くぼんだ眼孔に澄んだ眼が光る。

カニシカのクシャン族は中央アジアの遊牧の民です。その遊牧の民が峻険なヒンドウークシ山脈を越えてガンダーラに入ります。

ヒンドウークシとはペルシャによって奴隷にされた多くのインドの民がこの山脈で命を落としたことから名づけられた、「ヒンドウーを殺す」という意味です。

クシャン族がこの地へ来るのは紀元後一世紀、アレキサンダーの登場からすでに四百年の時が流れていました。そして紀元後二世紀にカニシカ王が登場します。



それまで経済的に豊かで揺るぎない帝国を築きローマ帝国とも交流を深めていたクシャン王朝、ゾロアスター教を信仰していたクシャンの民がこの時代からきそって仏教に帰依し寄進し仏塔を次々と建立しました。

カニシカ王朝はローマと対等の力を持っていました。カニシカはローマ金貨をわざわざ鋳つぶして自らの姿を刻ませたカニシカコインを作りました。その重さはローマ金貨と全く同じでした。そしてそのコインには仏像が刻まれたものもあります。

すでにこのガンダーラは仏教が深く拡がっていました。その地に新たに登場した北からの征服者が、自らの宗教を押しつけるのではなく、その地の宗教仏教に帰依するという歴史上希な現象が起きました。

普通は征服者が自らの宗教をその地に拡めようとしていきます。しかしカニシカは仏教の教えに深く傾倒していきます。

その理由は定かではありません。多くの謎があり歴史の彼方に隠されています。しかしこの時代は仏教の大きなターニングポイントでした。

もしかしたらこのガンダーラが仏教の大きな思想上のターニングポイントかもしれません。

ガンダーラはパキスタンの今のペシャワールを首都としてその両翼は西はアフガニスタンのバミヤン、東はインドにまで拡がっていました。

そのバミヤンの大仏が爆破されてしまった事は記憶に新しいと思います。

そのバミヤンの遺跡から数多くの経典が発見されています。カロシュティー文字で木の葉に刻まれた経典は世界最古の大乗経典である可能性が極めて高く、大乗仏教の大切なキーワード『六波羅』という文字も解読されています。

北インドではサンチー大塔が建立されインド中央ではアジャンタの石窟も作られます。

仏教が中国へも拡がっていきました。

瞑想によって自らの悟りを求めた初期の仏教から、現世においても来世においても人々を救ってくれる大乗仏教が、物質的に豊かで繁栄を誇ったカニシカ帝国の人々の心をとらえました。そして少しでも釈尊に近づきたいという希求から仏像が誕生しました。

西遊記のモデルにもなった玄奘三蔵も訪れたガンダーラは世界遺産に登録されました。このガンダーラに日本の仏教徒が訪れれば日本とパキスタンの交流がとて深まるでしょう。日本と変わらない自由な雰囲気、の学生達の姿。一方小学生達はどの街でも美しい制服姿で教育が行き届いていることを感じました。

今回の旅は駐パキスタン日本大使田中信明様ご夫妻のお世話になり素晴らしい滞在となりました。

駐日パキスタン大使はじめ現地で実際にご案内いただいたパキスタンの多くの方々に深く感謝いたします。



七層の天蓋を持つ美しい仏塔



ラホール芸術大学のカリグラフィーの教授と作品（左）



ラホール芸術大学の学生達



光溢れる芸術大学のキャンパス



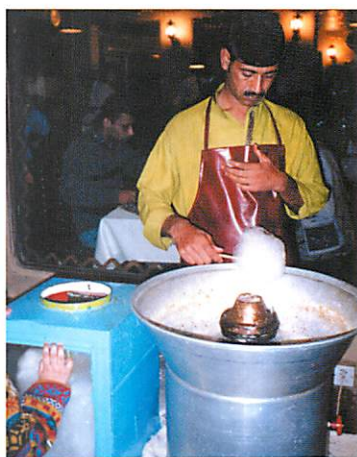
モスクの壁面の華紋はラピスなどがふんだんに鏤められている。



香辛料のきいた食べ物 日本と同じわたがしも



インドとの国境の衛兵 奥の茶色の軍服はインドの兵隊



お釈迦さま真理の花束



Overcome anger by loving-kindness,evil by good;
Overcome the stingy by generosity,and liars by
truth.

至	勝	善	忍
誠	者	勝	辱
勝	能	不	勝
欺	施	善	誠



和やかさによりて

怒りにうち勝ち

善きことによりて

悪しきことにうち勝ち

慈恵によりて

客齋にうち勝ち

しかして真言によりてのみ

我ら虚言、偽りのひとに勝つべし

金色の鹿

絵 美香



むかしむかし菩薩はベナレス王国の深い森の中で金色の鹿となつて森の仲間と暮らしていました。
金色の鹿はどんな問題も智慧で解決し森と仲間を守ってきました。
森の周りには激しい流れの川があるので人は近づけませんでした。

ある日、金色の鹿の耳に叫び声が聞こえました。人の叫び

声です。

急いで行つてみると男の人がおぼれかかっています。
金色の鹿はとっさに思いました。この流れに飛び込んだら私も溺れてしまうかもしれない。

しかしそう思いながら鹿は川に飛び込んでいきました。
助けられた男はとても感謝をしてお礼をしたいといいました。しかし金色の鹿は

「お礼は結構ですが、わたしがここにいることを誰にも言わないでください。森の仲間が迷惑しますから。」

男はけして誰にも話さないと約束しました。

あるとき王妃様が金色の鹿の夢を見ました。そして王様にどうしても金色の鹿を見たいと言いました。

王様は国中におふれをだしました。

男は賞金が出ることを知り、王様を森に案内しました。
森に行くと大きな立派な金の鹿が逃げようともせず、こちらを向いて立っています。

森の仲間が安全なところに逃げるまで動きませんでした。

男はなぜか急に怖くなって弓矢で鹿をうとうとしました。そのとたん弓を持つ手が激しく痛みだしました。



金色の鹿は男のところまでやってくと、男の手をそつとなめてあげました。

男は涙を流して鹿に謝りました。

「ごめんなさい。つつい賞金に眼がくらんで約束を破りました。」

鹿は王様に

「どうかこの人を許し立ち直らせてください。」

王様は金色の鹿の大きな心に感動して、思わず合掌しました。

そしてそれから王様は金色の鹿の心のような大きな心で国を治め、人々はいつまでも幸せに暮らしました。

ジャータカ物語はお釈迦様の前世の物語です。お釈迦様の前世は猿の王や金の白鳥やときにはかわいいうサギなど様々な生き物でした。そして多くの善行と徳を積み重ねたのでやがてお釈迦様となりました。ジャータカ物語には日本の童話やイソップ物語のものになるお話も多くあります。親が子供に読み聞かせるのにも最適です。

『高齢者の心理療法 回想法』

黒川由紀子著 誠信書房

回想法とは高齢者の心理療法のことです。

英語のlife reviewあるいはreminiscenceの訳語です。

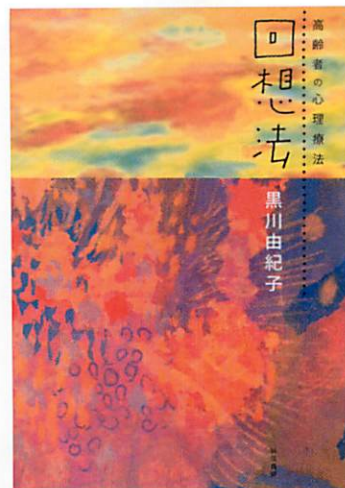
高齢になるほど自分の人生を振り返ることが多くなるそうです。

一人で人生を振り返ると、ともすると「自分の人生は失敗だった。」「もっとやりたいことがあったはずだ。」などと否定的な気持ちの迷路に入ってしまうようです。

しかしそこに訓練された良き聞き手が傍らに付添い、心静かに話を聞くと、本人の人生を今一度意味のある豊かな人生だったと受け入れられるようになります。

『死』という受け入れがたい現実を間近にするほど人の心は揺れ悩むと思います。

『死』を安らかに迎え入れることは容易ではありませんが、自らの人生を素晴らしい人生だったと味わえる人には『死』の恐怖が消えむしろ光の世界への扉のようにさえ見えてくるような気がします。美しい表紙カバーを見てそんなことを感じた素敵な本です。



『いま、そこにいる良寛』

北川フラム＝編 現代企画室

良寛さんほど人々に親しまれた僧はいません。宗派の位を極めることもなく、大寺院の住職でもありませんでした。粗末な身なりで子ども達と鞠つきをしたり、俳句をよんだ越後の人です。しかしいつしか良寛さんの名は江戸にまで轟きます。また若き貞心尼との交流は良寛さんの最期まで続きます。最期に交わした二首の美しさは格別です。

いきしにのさかひはなれてすむ身にも さらぬわかれのあ
るぞかなしき 貞心尼

御かえし 裏をみせおもてをみせて散るもみぢ 良寛



新潟出身の北川氏は数々の芸術イベントの名プロデューサーであり、越後・有妻アトリエンナーレの総合コーディネーター。アトリエンナーレの規模の大きさ、内容の豊かさは最も成功した地方のイベント。新潟の地域、産業、文化の情報発信を続ける北川氏が東京の表参道の「表参道・新潟館ネスパス」で連続開催されたレクチャーを一冊にまとめた好著。



『タイム・フォー・ブランチ はなの東京散歩』

はな PARCO出版

FM放送J-WAVEの番組から生まれた本。NHKの新日曜美術館の司会者としても仏像好きとしても知られるはなさんが自ら散歩した素敵な場所。鎌倉から目黒、代々木、皇居など。もちろん涼をもとめて真夏の等々力溪谷も紹介されています。



『世界の食文化 タイ』 山田 均 農文協

何をどのように食べているかを見るとその国の姿が浮かび上がります。タイは日本と同じ米文化の国。竹籠に入った餅米を手で握っておかずと一緒に食べるオニギリの美味しさは忘れられません。本書は実に多角的にタイの食文化を紹介しています。普通のタイ人の定義も難しい今ですが、僧侶からビジネスマン、タクシー運転手からホステスまでの食を紹介します。タイの代表的な料理のレシピも掲載され、タイ料理の歴史も明らかにしています。



『十代に何を食べたか』 平凡社+未来社編

医食同源という素晴らしい言葉があります。日本全体が粗食だった戦前には糖尿病患者がいなかったそうです。そしてこの五十年で日本は飽食の時代、人口の多くが糖尿病の予備軍といわれるまでになりました。より早くより簡単に食せるファーストフードが当たり前になった今日、本当の豊かな食とは何かを問う運動がやっと動き出しました。手間暇をかけて育んだ食材を丁寧に時間をかけて調理して、ゆっくり味わいながらいただくスローフード運動もヨーロッパから拡がりはじめました。巻末の日本食物史略年表は必見です。



次号特集 花脊美山荘茶会

Editor ABE RYUJU Art Director and Photographer/TATSUKI Editorial Staff/ SAMURO MIWA SHIMAZU RYUTOKU KAWASAKI YUKIKO
KAWAMURA KAZUYA KARASAWA YUUYU

Making Mechanic B E N R I D O Printing KORINKAKU

EDITORIAL OFFICE MANGANJI SHUGEISHUCHIIN S.H.C

〒158-0082 東京都世田谷区等々力3-15-1 電話 03-3705-1622 ファクシミリ 03-3703-4979

Shingon Horonic Irowanioedo 第一巻第三十四号 平成十七年弥生発行

R100